

平成30年度第1回 えちぜん鉄道活性化連携協議会 議事録

日 時： 平成31年2月15日（金） 10：30～12：00
場 所： フェニックス・プラザ 3階 301会議室
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長挨拶（勝山市長）

2 報告事項

規約第8条台2項により、座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告1 報告1 えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画主要施策進捗状況について
事務局（福井市地域交通課）より資料説明（報告1資料参照）

<質疑応答>

委 員 「フィーダー路線の整備充実」について、接続駅や乗車人数の変遷は、分かるか。整備充実度がどのようになっているか、分かれば教えてほしい。

事務局 接続している駅は把握しているが、それぞれのバス停での乗車数は押さえていない。
えちぜん鉄道 自治体でもコミュバスを各駅に接続させているが、どのくらいの人が乗り継いでいるかは中々掴めない。乗継のデータを調べるには、最近では携帯の移動データなどを活用し、どういう交通手段を使って、人はどこに行っているのかを把握できるようになっている。今後、新しいデータの活用で、人はどうやって移動しているのか、ニーズはどこにあるのか、といった点を掴めば、非常に良い交通体系が出来ると思う。今後、計画や施策を考える時にそういったものを活用していければと考えている。

委員 並行在来線、新幹線が来るとますます総合交通体系というものが重要になってくるが、フィーダーについては、現実ではあまり利用されていない所が多いかを確認できればと思った。全ての駅でフィーダー交通が充実できていれば生活交通として充分役に立っていくと思う。

座長 各自治体で生活支援型の生活交通としてコミュニティバスを運営し、駅に接続する場合はダイヤを合わせている。目的地がどこかということだが、利用促進を行う際に大きく関わる。そういう地域内での移動を活性化していくベースは作られており、勝山市においては、恐竜博物館を目的地としてえち鉄と博物館の間をバスでアクセスできるようにさせ、利用者が増えている。

委員 昨年の10月から11月にかけて、約1ヶ月間、自動運転の実証実験をしたが、どういった人が利用しているか。また、鉄道を使ってきたかは分かるか。

事務局 詳細なデータはないが、主に観光利用が多い。また、鉄道で来ていたかどうかのデ

ータは持ち合わせていない。

委員 永平寺を訪れる観光客では、行きは自動運転、帰りは路線バスという動きがあると聞いている。また、買物や病院などの生活交通として、地元の方が永平寺口まで出かけるなど、大変好評であるとも聞いている。京福電鉄の線路跡地と、地域的な問題がマッチしていたのではないかと情報を聞いている。

委員 永平寺へのアクセスについて、福井駅から直行でバスでいく行き方と、永平寺口駅からバスに乗り継ぐ行き方があるが、えち鉄からの乗り継ぎではなく、福井駅から直行バスで行く方がはるかに多いと聞いているが、その点についてはどのように評価しているか？

えちぜん鉄道 利用者に使い分けをしてもらう。競合ではなく、電車に乗って行きたいという方には電車を紹介し、時間がない中でも行きたいという人にはバスの案内をしている。

先ほどの問題と絡むが、今までは10年に一度のパーソントリップしかなかったが、そうではないやり方が技術的には可能となっている。永平寺町のIOTの取り組みの中でMaasを進めるということが大きな柱となっており、モノの流れ、人の流れ、お金の流れなど、交通分野だけで検討していても難しいということが見えてきた。

委員 今の件について、福井駅から朝倉氏遺跡への周遊コースもあり、永平寺口からのバスの状況も把握していないが、数値が分かれば報告する。

座長 最終目的地である永平寺にも色々な手段のコースを設定しておくことが大事。永平寺口駅周辺が立寄りとして魅力を上げていくと、直行するか永平寺口に寄っていくかという選択も出てくるので、魅力をどうつくっていくかということと、そこへのアクセスのルートはどうしていくかということは、次のステップの大きな課題となると思う。

沿線住民にとって、えちぜん鉄道は大分認識が変わったと思う。新田塚駅のホームで、藤島中学校の生徒がえちぜん鉄道は我々に取ってなんだろう、都会とはどう違うのだろうかという、総合学習の成果を掲示している。中学生がこういった認識をしているということを示すことは非常に良い。駅を媒体として、地域が違った形で駅を活用している。

委員 乗客を増やすという取り組みを行っており、企画した熱燗電車には大阪からの参加もあった。県外へPRを行うことで利用者が増えると思う。県外、世界からもえちぜん鉄道に、ということで、これからもPRしていきたい。

座長 全国的にも鉄道を単なる移動手段ではなく、移動そのものを楽しむような使い方が増えている。映画の発信も相当なPRなので、それをどう使っていくかだろう。

他に意見がないことを確認し、報告(1)終了。

報告2 乗車実績、駅等施設整備、安全性向上について

えちぜん鉄道(株)より資料説明(報告2資料参照)

<質疑応答>

委員 補足説明として、乗車実績で通勤定期が4.5%の伸び、非日常が5.8%の大きな伸びがあった。えち鉄関連のテレビ番組や映画の公開もあり、県外からの利用者も増え、また訪日外国人も着実に毎年増えてきている。

昨年10月には全線開通15周年記念イベントを行い、約3,000人の方の来場があった。

平成31年度に予定される西長田駅の建て替えて、大体大きなハード面の整備は終わり、今後は設備の効果を最大限に活かしながらソフト面の充実をはかり利用者を増やしていきたい。

委員 安全対策の資料について若干補足する。

国からの安全指導という点について、昨年、運輸安全委員会から国土交通大臣に対して意見が出された。木枕木に犬釘でレールを止めているが、その止めている枕木が腐っており、安全対策が全く効いておらず、全国的に脱線が4件ほどあった。

各社、補助金を使って、順次、新しい枕木やコンクリート枕木に交換するというのを毎年やっているが、本当は優先的に交換して欲しいカーブ部分の枕木が各社の整備計画では後になってしまっているというところで脱線が起きていた。少しずつ腐りに強いコンクリート枕木に替えて行くことが大事だという意見が出た。

また、沿線火災における消防・警察の確認については、東京の小田急の線路沿いで火災が発生し、警察官が踏み切りの支障報知装置のボタンを押し、列車が火災箇所に来ないようにしたつもりであった。しかし、運転士は支障報知装置が押された場合は、踏切までに停まる必要があり、列車がたまたま沿線火災の脇に停まり車両に延焼した。支障報知装置を作動させるとどういう事象が起きるかについて、警察・消防含め、もしこういった事象が発生した場合の緊急連絡体制の確認が必要であるという指示が出された。

踏切の安全対策の下の写真は、4種踏切とって、遮断機と警報装置がついていない、渡る人が自分で安全確認をする必要がある踏切である。列車が100m位までに近づいてきた時に渡っている人がいても列車は停まりきれず、自転車で渡っている人や高齢の人が退避できずに事故にあうケースがある。4種踏切は、国としては踏切として認めておらず、どんどん廃止していくという方向でお願いしている。もし地元要望で廃止が出来なければ、警報機や遮断機をつけていくことが必要となる。ただ、警報装置のみがある3種踏切についても危険が潜んでいる。警報がなくても遮断機が閉まらないので列車がまだ来ないという認識で踏切内に進入して列車に接触するという事故が起こる。3種踏切にも遮断機を付けていくという改善をお願いしたい。国も補助を出しているが、地元の方々も補助を入れて整備していった危険を取り除いていくための協力をお願いしたい。

中部運輸局では昇竜道プロジェクトを行っている。その中でも外国人旅行者の誘致を進めており、昨年12月に訪日外国人が3,000万人を突破した。鉄道会社でクレジットカードが使えなくても予約、検索、支払といった全てが可能となるMa a Sを使えば、外国人の来訪環境が整うので、北陸新幹線開業時には、こういった取組みをぜひお

願いたい。

座長 安全、踏切対策については参考として進めてもらえればと思う。

今後、インバウンドをどうするかということは、公共交通だけの問題ではないが、重要な課題となる。

委員 北陸新幹線の開業に関し、福井駅から各地域に行く時には2次交通が必要であるということから、必ずえち鉄の需要は増えてくると思う。

逆に県内各地から東京に行く時、えち鉄沿線のパークアンドライド駐車場を利用して福井駅へという点について、現在、充実しつつあるが、更なる駐車場の整備ということが効果的ではないかと考えている。勝山市でも努力していきたい。沿線市町においてもその観点で願いたい。

座長 当初の連携計画から生活関連社会資本として整備を進め、住民にもそうした意識が醸成された結果として利用者数が増えていった。今後は、立地適正化計画等で公共交通機関の沿線に人や移動主体を集めていくことで、中長期的には地域の移動にも伸び代があると思う。

新幹線の4年後の福井開業、10年か15年先に全線開通となる時に、恐らく鉄道は生活関連社会資本というものを越えて、地域の活力創生社会資本とでもいう存在として、どう次に展開していくか、並行在来線や福鉄とのますますの連携強化をはかり、総合的な戦略として検討する母体をきっちり作っていく必要がある。えち鉄が次のステップに行くには横の連携、長期的な連携、フィーダーも含めたネットワークとしての総合的な連携について戦略的に考えるということについて、えち鉄協議会からそう発信をしていくことも大事である。

利用者が増え、ある程度定着したということよりも、これから先、今後どういう形で展開していくかという点に議論をシフトしていくことも重要であると思う。

他に意見がないことを確認し、報告(2)終了。

報告3 「えち鉄物語PR」及び上映スケジュール等について

勝山市観光政策課より資料説明(報告3資料参照)

<質疑応答>

特になし

他に意見がないことを確認し、報告(3)終了。

その他、特に意見等がないことを確認し、終了。

閉会